

ベクトルの腕試し6題

1 平面上において同一直線上にない異なる 3 点 A, B, C があるとき, 次の各々の式を満たす点 P の集合を求めよ.

(1) $\overrightarrow{AP} + \overrightarrow{BP} + \overrightarrow{CP} = \overrightarrow{AC}$

(2) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AP} = \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AB}$

(3) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + \overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AP} \leq \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AP} + \overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{AP}$

(鳥取大)

2 四面体 $OABC$ の辺 OA , OB 上にそれぞれ点 D , E をとる. ただし, 点 D は点 A , O と異なり, AE と BD の交点 F は線分 AE , BD をそれぞれ $2:1$, $3:1$ の比に内分している. また, 辺 BC を $t:1$ ($t > 0$) の比に内分する点 P をとり, CE と OP の交点を Q とする.

(1) \overrightarrow{OF} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} を用いて表せ.

(2) \overrightarrow{OQ} を \overrightarrow{OB} , \overrightarrow{OC} および t を用いて表せ.

(3) 直線 FQ と平面 ABC が平行になるような t の値を求めよ.

(東京医科歯科大)

3 $\triangle ABC$ を線分 BC を斜辺とする直角二等辺三角形とし、その外接円の中心を O とする。正の実数 p に対して、 BC を $(p+1):p$ に外分する点を D とし、線分 AD と $\triangle ABC$ の外接円との交点で A と異なる点を X とする。

(1) ベクトル \overrightarrow{OD} を \overrightarrow{OC} , p を用いて表せ。

(2) ベクトル \overrightarrow{OX} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OC} , p を用いて表せ。

(北海道大)

4 空間内に3点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 2, 0)$, $C(0, 0, 3)$ をとる.

- (1) 空間内の点 P が $\overrightarrow{AP} \cdot (\overrightarrow{BP} + 2\overrightarrow{CP}) = 0$ を満たしながら動くとき, この点はある定点 Q から一定の距離にあることを示せ.
- (2) (1) における定点 Q は3点 A , B , C を通る平面上にあることを示せ.
- (3) (1) における P について, 四面体 $ABCP$ の体積の最大値を求めよ.

(九大)

5 平面上に三角形 ABC がある．その平面上の点 P が、 $l\overrightarrow{PA} + m\overrightarrow{PB} + n\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ を満たしているとする．ただし、 l, m, n は $l + m + n = 1$ を満たす実数である．

(1) 点 P が辺 BC 上にあるための l, m, n の条件を求めよ．

(2) 点 P が直線 BC に関して A と同じ側にあるための l, m, n の条件を求めよ．

(津田塾大)

6 点 $O(0, 0, 0)$ と点 $N(0, 0, 1)$ を直径の両端とする球面 S がある. xy 平面上の点 $P(\alpha, \beta, 0)$ を考え, 直線 NP と球面 S の交わりで N と異なる点を $Q(X, Y, Z)$ とする.

(1) X, Y, Z を α, β で表せ.

(2) Q が, 球面 S と平面 $x + y = \frac{1}{4}$ の交わりの円 C 上を動くとき, 点 P の描く図形を求めよ.